

令和3年1月15日

## 新型コロナウイルス感染の社会的スティグマの防止に向けて ～偏見や差別されることなく安心して生活できる社会を求めます～

公益社団法人日本認知症グループホーム協会

新型コロナウイルスの感染拡大が急速に広がり終息の目途が立っておりません。認知症グループホームにおいても感染やクラスターが発生し、入居者の生命と暮らし、職員の生活や事業所の経営を脅かすなどの危機的な状況も散見されます。

これまで私たちは、ホームで暮らす認知症高齢者の生命を守るために、入居者、家族、職員が協力し合って、感染予防策を徹底してきました。対策を行っているにもかかわらず、新型コロナウイルスの感染を完全に防止できないのが現状です。

私たちが憂慮するのは、感染を過度に恐れる心が、人々の差別意識を生み出し、認知症の人たちとその家族が、「認知症による差別」と「コロナウイルス感染による差別」という二重の差別に晒されることです。

自分は差別などしないと誰もが思っているかもしれませんが、振り返ってみると差別しているのは、地域社会に住むごく普通の人たちです。真に恐れるべき対象は、ウイルスであって感染した人ではありません。今大事なことは、人としての思いやりをウイルスに奪われてはならないことです。

もし感染が発生した場合でも、個々人の行動や施設の責任に過度の焦点を当てるのではなく、マスクを着用することが難しい本人の障害や、密接・密集を避けられないケアの現実を十分に理解した上での対応や公表であることを望みます。

私たちは、これからもグループホームにおける適切な感染予防対策に力を入れ、入居者・職員の生命と人権を守るように努力しますが、皆様にも偏見や差別などの社会的スティグマを恐れることなく、安心して生活できる社会になるよう更なるご協力とご配慮をお願いします。